

平成 26 年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	くもんがくえん くもんこくさいがくえんちゅうとうぶこうとうぶ				②所在都道府県	神奈川県
26～30	①学校名	公文学園 公文国際学園中等部・高等部					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年		計	平成 25 年度高等部在籍生徒総数 472 名 (中等部在籍生徒数 510 名 中学・高校在籍生徒総数 982 名)	
普通科	159	155	158		472		
⑥研究開発構想名	世界へ飛躍する為の総合学習と模擬国連を軸としたグローバルリーダー育成						
⑦研究開発の概要	全員を対象とした総合学習（高 1 「Project Studies」、高 2 「Liberal arts Education in English」）による基礎力養成と、希望者を対象とした模擬国連を軸とした発展的教育活動（「Global Issue」、「Global Studies」「海外模擬国連」、「校内模擬国連」など）を有機的に組み合わせることにより、グローバル教育の更なる充実を図る。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>国際的な視野に立った人文・社会・自然科学への深い関心と幅広い教養の醸成、多様な教育活動を通じた人間力の育成を目的とし、グローバルな視点での問題意識を前提とした探求型学習活動の深化、模擬国連の活動への参加者増と事前・事後学習の充実、校内模擬国連への海外の学生の招聘、大学との連携による生徒の主体的な課題研究活動の促進を目標とする。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>グローバルリーダーを育成する上で必要な教育プログラムは、全生徒を対象として学年進行で行うステップアップ型のベーシックなプログラムと、意欲や能力の高い生徒をピックアップして集中的に行うハイレベルなプログラムの 2 種類に大別される。この 2 つがそれぞれ有効に機能しながら有機的に結びつくことで、大きな教育効果が得られるものと確信している。</p> <p>前者における具体的な教育活動として、本校では既に中 3 の「日本文化体験」、高 1 の「Project Studies」を実施しているが、それにつながる高 2 でのステップアップが十分に整備されていないのが現状である。そこで高 2 の総合学習として「Liberal arts Education in English(LEE)」を新設し、海外および国内の大学と連携しながら、英語による主体的な学習活動を促進する。中 3 から高 2 までの 3 年間において、グループでの探求学習→個人での課題研究→英語での個人課題研究という学習活動のステップアップを全生徒に保障する。</p> <p>後者においては模擬国連参加者への指導の更なるレベルアップが必要であると認識している。そこで模擬国連の参加生徒を中心に、「Global Issues」という取り出し授業を設定し、グローバル化する現代社会の諸問題について英語で学び討議する時間を正課の授業の中に組み込む。また高 3 において自由選択科目枠に「Global Studies」という英語科の授業を設定し、英語で継続的に課題研究に取り組める体制を整える。更に、高 3 の希望者も含めて校内模擬国連（MUNK International）に海外の学生を 20 名程度招聘して実施し、本校を発信源とした国際交流を進めていく。加えて、発展途上国への教育支援を旨とした NGO 組織を実際に立ち上げ、研究成果を実際の行動に結びつける教育活動を行う。裾野を広げ、高みを目指す。総合学習と模擬国連が、本校のグローバル教育の両輪となるのである。</p> <p>これらの活動を通じて、CLLIPER（クリッパー）の強化を図る。CLLIPER とは、Communication（コミュニケーション力）、Leadership（リーダーシップ・行動力）、Language（言語力）、Intelligence（知性知識・思考力）Presentation（発表発信力）Experience（経験値）Research（調査研究・情報分析力）の頭文字を取ったもので、グローバルリーダーを育成する上で不可欠と思われる要素である。これらの力を様々なプログラムによって効果的に強化することによって、現状の課題を克服することが、多くのグローバルリーダーの育成につながると思われる。</p>					
⑧研究開発の内容等	⑧-2 課題研究	<p>(3) 成果の普及</p> <p>既に実施している「国際理解 DAYS」（本校の国際理解教育活動の成果発表会）を一般公開</p>					

	<p>し、グローバル教育の成果の普及と相互交流を図る。</p> <p>(1) 課題研究内容 「グローバル社会における国際機関や NGO の果たすべき役割 ～発展途上国への教育支援を中心として～」</p> <p>模擬国連の活動をグローバル教育推進のための軸の一つとして位置づけている本校では、課題研究のテーマとして、「グローバル社会における国際機関や NGO の果たすべき役割」を掲げることにした。併せて、「発展途上国への教育支援を中心として」というサブテーマを設定している。これは、現代の国際社会における諸問題の根底に、「教育」の問題が伏流しているという認識によるものである。多様な活動を通じて、生徒がグローバル社会における教育の現状と課題を調査し、考察し、発表し、実際に国連や国際機関に提言を行い、自分たちで NGO を立ち上げて行動を起こすことができるようなレベルにまで活動を発展させたい。課題研究の助言・指導については、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科の教授である黒田一雄氏の協力を仰ぐ予定である。</p> <p>(2)実施方法・検証評価 I) 高1 —— 「Project Studies」における課題研究設定 II) 高2 —— 「Liberal arts Education in English (LEE)」の新設と推進 平成 26 年度高等部入学生を「SGH 重点学年」と位置づけ、高1での Project Studies、高2での Liberal arts Education in English (LEE) を通じて、学年進行によるグローバル教育活動を展開し、テーマに沿った研究を進めていく。成果発表会でのプレゼンテーションや論文等の質の向上、模擬国連への参加者の増加、議場での発言の質と量の向上、校内模擬国連の成功、TOEIC の成績向上などの指標によって検証評価を行う。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 I) 高1 —— 「Global Issues」の新設 II) 高3 —— 「Global Studies」の新設 III) 長期休業期間を活用した Intensive Seminar の実施 IV) 国内模擬国連 (MUNK International) への海外の学生の招聘 V) 海外模擬国連の活動の更なる充実 VI) 外部団体へのプレゼンテーション VII) 課題研究対象の途上国現地でのフィールドワーク VIII) 発展途上国への教育支援を目的とした NGO 組織の立ち上げ (KKG Janken 仮称) IX) 国際化を進める国内外の高校・大学や企業・国際機関等との連携強化 X) ハークネステーブル (Harkness Table) の手法を利用した授業形態の普及</p> <p>上記の活動を通じて、グローバル教育の更なる進展を図る。模擬国連への参加者の増加、議場での発言の質と量の向上、校内模擬国連の成功、大学・企業・NPO 主催のボランティア活動への参加生徒の増加、外部団体からの評価、NGO 活動の内容などの指標によって検証評価を行う。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし</p> <p>(2) グローバルリーダー育成に関する環境整備、教育課程外の実施内容・実施方法 国際的な問題について深い関心を持った生徒が、具体的に何らかの活動に参加したり、自ら活動を立ち上げようとする時、それをバックアップする態勢を整える。具体的な内容については、現在、検討を進めている。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>本校には専任の外国人教員が 5 名在籍し、英語の授業に加えて、学年や分掌、部活動や委員会の顧問などの校務にも携わっている。分掌組織としての「国際部」では外国人教員と日本人教員が協力して、日々、国際理解教育活動の推進にあたっている。今後、グローバル教育を推進していくにあたって国際部の拡充も必要になると思われる。教職員の研修の機会を保障し、スタッフの質と量の双方における充実を図っていく所存である。</p>

ふりがな	くもんこくさいがくえんちゅうとうぶ こうとうぶ	指定期間	26～30
学校名	公文国際学園中等部・高等部		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	60人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: SGHに関する活動を通して、本校対象学年の生徒が自主的に行動することを目標とする。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	60人
	SGH対象生徒以外:		36人	60人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: 本SGHに関する活動を通して、生徒の目が海外に向かう意識の向上を目指す。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		8.3%	10.4%	%	%	%	100%
目標設定の考え方: 高校卒業後、大学生や社会人となっても、国際的な視野を持つ生徒を持てる生徒を育成する。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: SGHの活動を通して、全国的に活躍・表彰される生徒をSGH対象生徒の半数を目標とする。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		47.9%	46.9%	%	%	%	80%
目標設定の考え方: SGHの対象と想定している生徒の現状を鑑みて、B1からB2レベルに対象生徒のすべてが達することを目標とする。								
(その他本構想における取組の達成目標)実際に将来グローバル企業や国際公的機関などで働く生徒の割合								
f	SGH対象生徒:							50人
	SGH対象生徒以外:		20人	20人				50人
目標設定の考え方: 実際の世界での活躍が後輩達の励みにもなるので、目標とされる生徒を育成する。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		57.9%	51.8%	%	%	%	100%
目標設定の考え方: 本校の現状を鑑みるとすべての生徒が文部科学省が想定している大学への進学を検討している。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:		3人	3人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: SGHの活動を通して、海外大学への進学を検討する生徒数がSGH対象生徒の半数を目標とした。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	100%
目標設定の考え方: SGHの活動が、生徒の将来設計に影響を与えることは必然であるとする。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	60人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 大学へ進学してより、グローバルな視野を広げ、行動に移す生徒が出ることを期待する。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人	人	人	人	人	人	60人
目標設定の考え方:SGH対象生徒は各自研究課題を持って、海外研修に参加する。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	0人	0人	人	人	人	人	人	60人
目標設定の考え方:SGH対象生徒は各自研究課題を持って、国内研修に参加する。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	0校	校	校	校	校	校	10校
目標設定の考え方:								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	人	26人	人	人	人	人	人	60人
目標設定の考え方:生徒の研究テーマについては、大学教員、学生とのコラボレーションが必須である。(20人×3回)								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	0人	0人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方:生徒の研究テーマについては、企業や国際機関との連携を計画している。(10人×3回)								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	0人	0人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方:国内外のコンクールなどに積極的にチャレンジする生徒が増えると予想できる。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	人	32人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方:SGHの活動を公表することで帰国生や外国人生の本校への興味は増すと予想できる。								
先進校としての研究発表回数								
h	0回	0回	回	回	回	回	回	3回
目標設定の考え方:1年間での研究発表には限度があるが、対外的な研究大会に参加することで研究成果を発表する機会を作る。								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○	○						○
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
目標設定の考え方:すでに整備されているが、よりアクセス数が増えるようなホームページを作成する。								
(その他本構想における取組の具体的指標)海外模擬国連で決議案のメイン・サブミッターになるなど、国際舞台でも大いに活躍できる生徒数								
j	0人	0人						20人
目標設定の考え方:比較的ハードルは高いが、過去には何名かが海外で議長等も経験しているのでSGH対象生徒の約半数を目標とする。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	480	472	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							